

将来設計(キャリアプラン) と準備について

希望進路..... 16

民間企業の進路希望に大幅な伸び

「民間企業」希望：05年度37.4%⇒06年度38.8%⇒07年度39.5%⇒今年度46.3%

進路決定時期..... 18

教員を目指す人で、「大学に入ってから進路を考えて」という人は激減

学部学生：中学生の時13.1%⇒大学に入ってから1.4%

大学院学生：中学生の時36.4%⇒大学に入ってから1.4%

将来設計..... 20

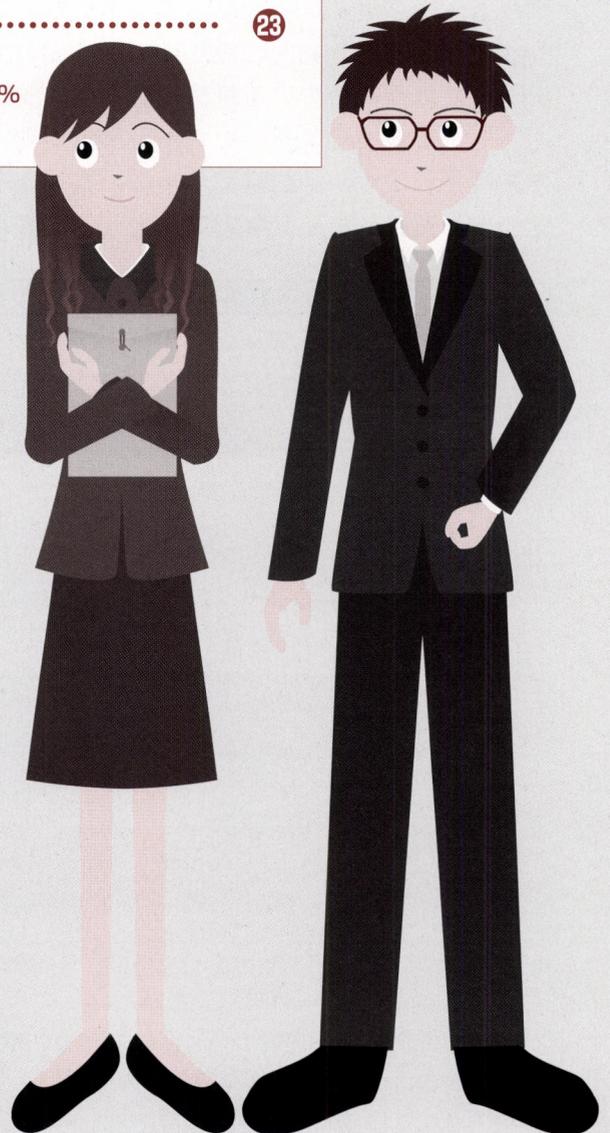
将来の進路への不安と大学への期待

39.9%の学生がキャリアプラン設定のアドバイスを求めている

将来設計への準備..... 23

進路に向けた準備は3年生から

企業研究・就職試験対策 2年生2.6%⇒3年生10.2%⇒4年生17.6%





民間企業の進路希望に 大幅な伸び

希望進路



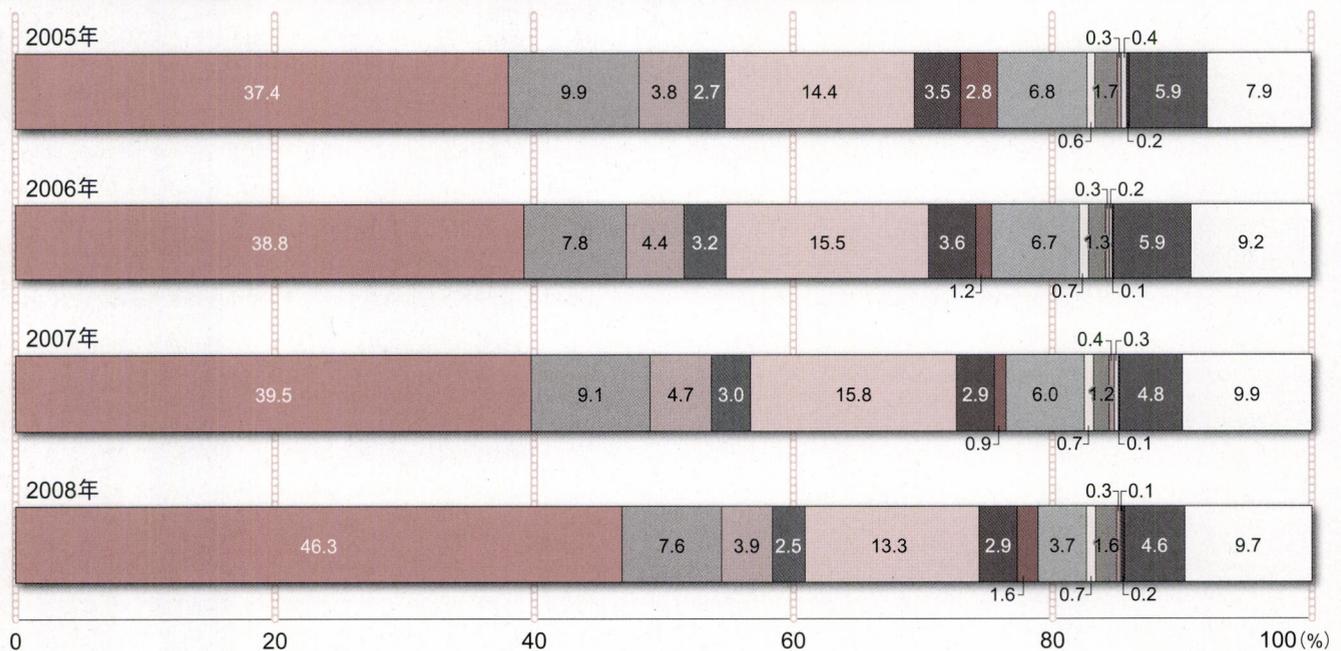
「民間企業」希望：05年度**37.4%**⇒06年度**38.8%**
⇒07年度**39.5%**⇒今年度**46.3%**

卒業後の進路希望において、「民間企業」を希望する学生の比率は過去3年間30%後半で毎年1ポイントずつ増えてきましたが、今年度は一気に7ポイント上昇して46.3%となり、全学生の約半数近くを占める状況になりました。この傾向は学部、研究科とも共通であり、いずれも46.3%の学生が「民間企業」を進路希望として考えています。一方、「民間企業」の進路希望の伸びに対して、ここ数年若干の伸びを示してきた「公務員」「教員」「大学院進学」、および「資格試験受験」がいずれも1～2ポイント程度減少しました。このような「民間企業」志向の傾向は、昨年度の就職状況がここ数年続いている景気の好調感に支えられて「売り手市場」であったことが最大の理由としてあげられますが、同時に数年後の景気の不安定感など、進路希望が景気動向に大きく影響を受け

ているものと考えられます。

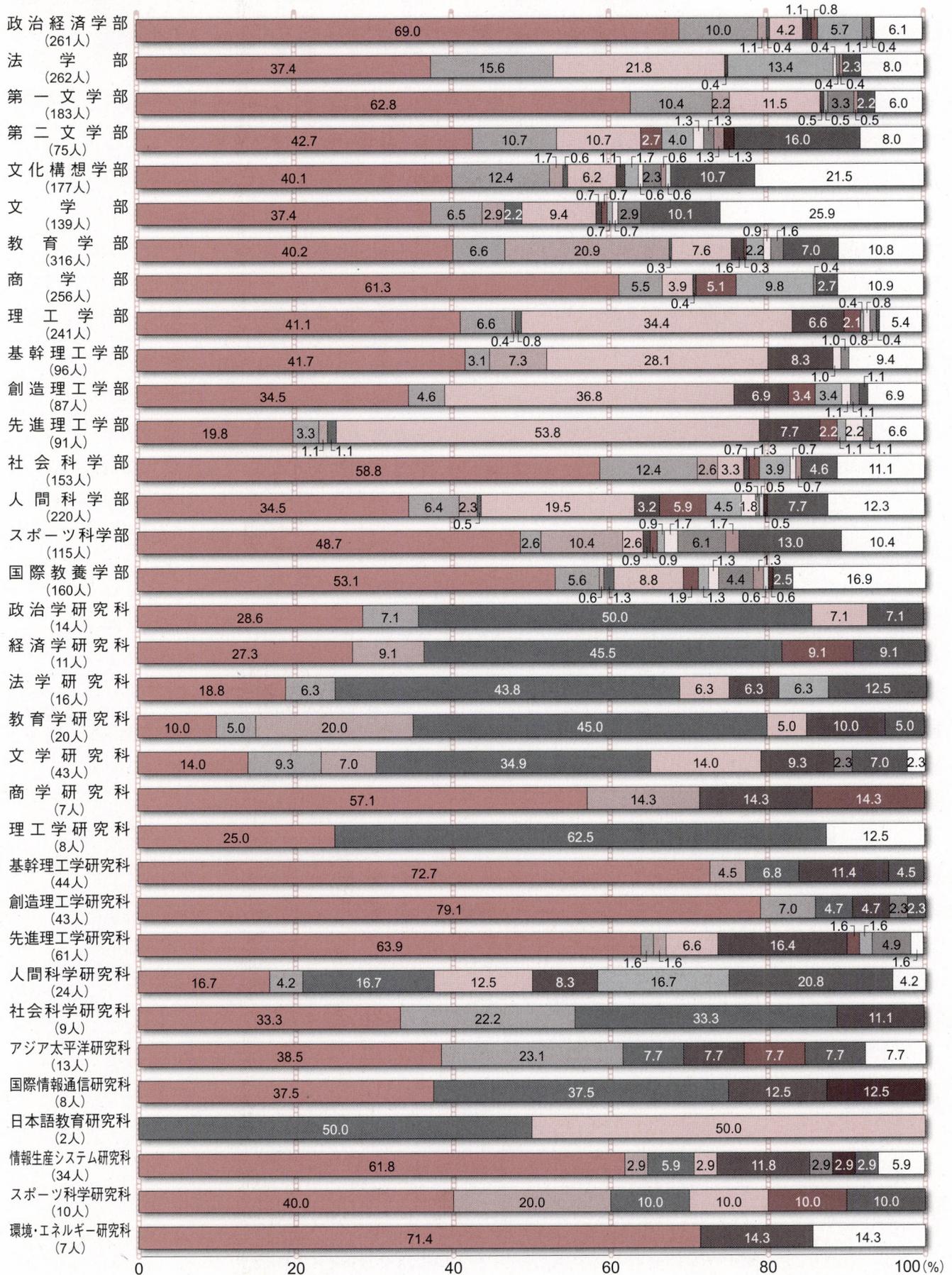
一方、学部別に進路希望を見ても、「民間企業」を進路希望する学生は、文系、理系によらずほぼ全ての学部・研究科において増えており、昨年度に比べて10ポイント増えている学部が7学部ありました。逆に、「公務員」志望が多く文系学部で減少し、「小中高教員」志望は教育学部において昨年度より4ポイント増えたものも、その他の学部では5～10ポイント減少しています。また、これまで研究科への進路希望が高かった理系学部において、「民間企業」志望が増えた分「大学院」への進路希望が減少している傾向が見られました。「大学院」への進路希望は一般に就職状況に左右される面がありますが、今年度はこの傾向がより顕著に現れたものと考えられます。

学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？ 年度別



- 民間企業
- 公務員
- 小中高教員
- 大学教員
- 大学院
- 研究所・シンクタンク
- 起業者
- 各種資格試験受験
- 編入・学士入学
- 留学
- 専門学校進学
- フリーター
- 派遣社員
- その他
- 未定

学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？ 所属箇所別



民間企業
 公務員
 小中高教員
 大学教員
 大学院
 研究所・シンクタンク

起業家
 各種資格試験受験
 編入・学士入学
 留学
 専門学校進学
 フリーター

派遣社員
 その他
 未定



教員を目指す人で、「大学に入ってから進路を考えて」という人は激減

進路決定時期



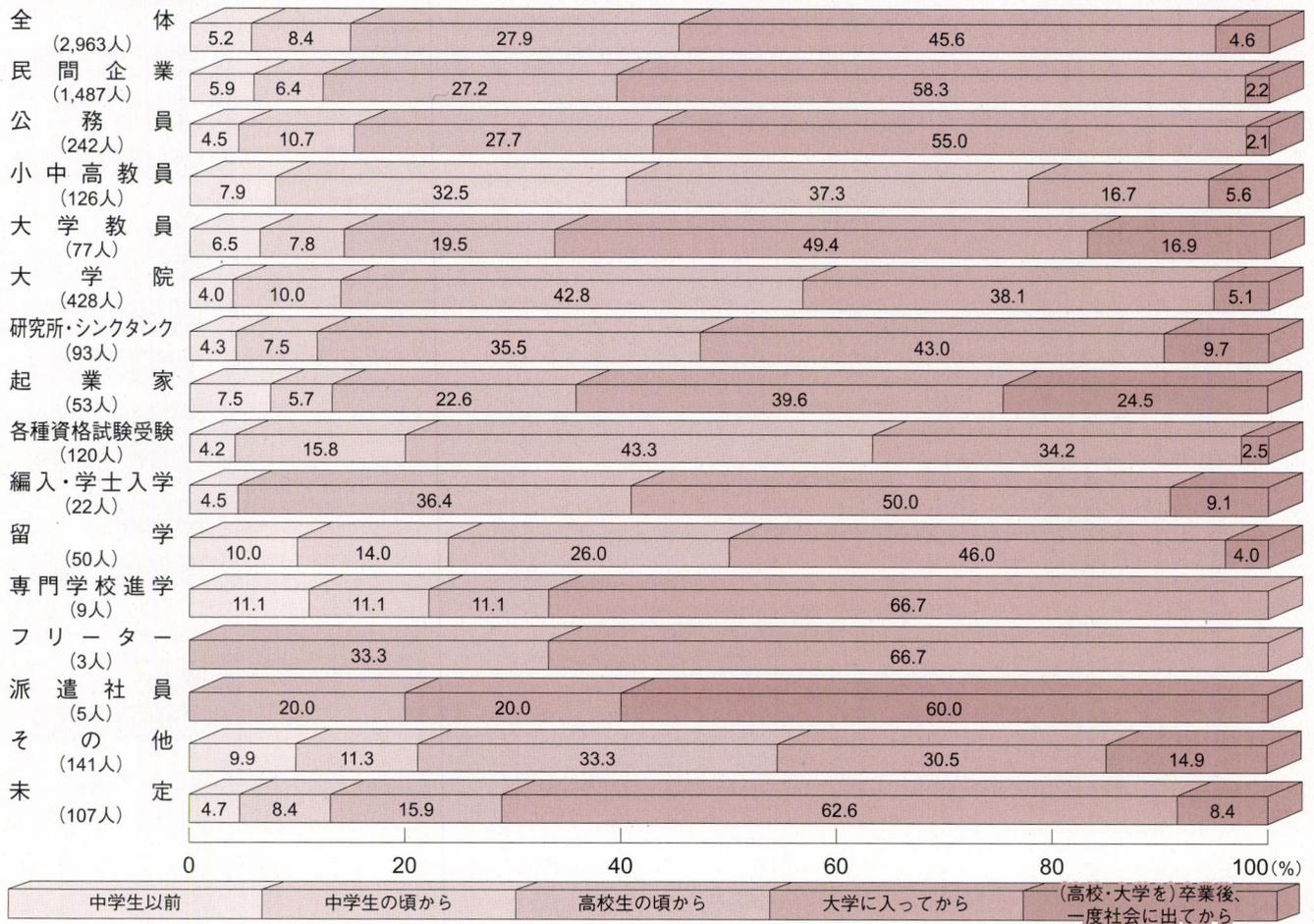
学部学生 : 中学生の時 **13.1%** ⇒ 大学に入ってから **1.4%**
 大学院学生 : 中学生の時 **36.4%** ⇒ 大学に入ってから **1.4%**

学生が進路を決定した時期を見ると、半数近くの45.6%に人が「大学に入ってから」、27.9%の人が「高校生の頃から」と答えています。進路別に見ると「民間企業」と「研究所・シンクタンク」を希望する人は、「高校生の頃」か「大学に入ってから」と答えた人が多いのに対し、「小中高教員」を志望する人の多くは「中学生の頃から」と答えており、「高校生」以降になってから「小中高教員」を目指す人は極めて少ないことが分かります。これは、「小中高教員」という職業が中学生にとって身近に接する先生を通して親しみが持てる職業であることと同時に、高校生以上になる

につれ視野が徐々に広がり、少しずつ現実的に将来の進路を考え始めるためと考えられます。また、進路別の傾向を決定時期で見ると「高校生の頃から」と答えた人と「大学に入ってから」と答えた人の傾向はほぼ同じになっており、「高校生」になった時点で進路別の傾向が固まってくる様子が見られます。また、進路の決定時期が「卒業後、一度社会に出てから」と答えた人では、「民間企業」が減少し、「大学院」への進学や「大学教員」や「研究所・シンクタンク」を目指す人の割合が増えてきます。

クロス集計 学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？

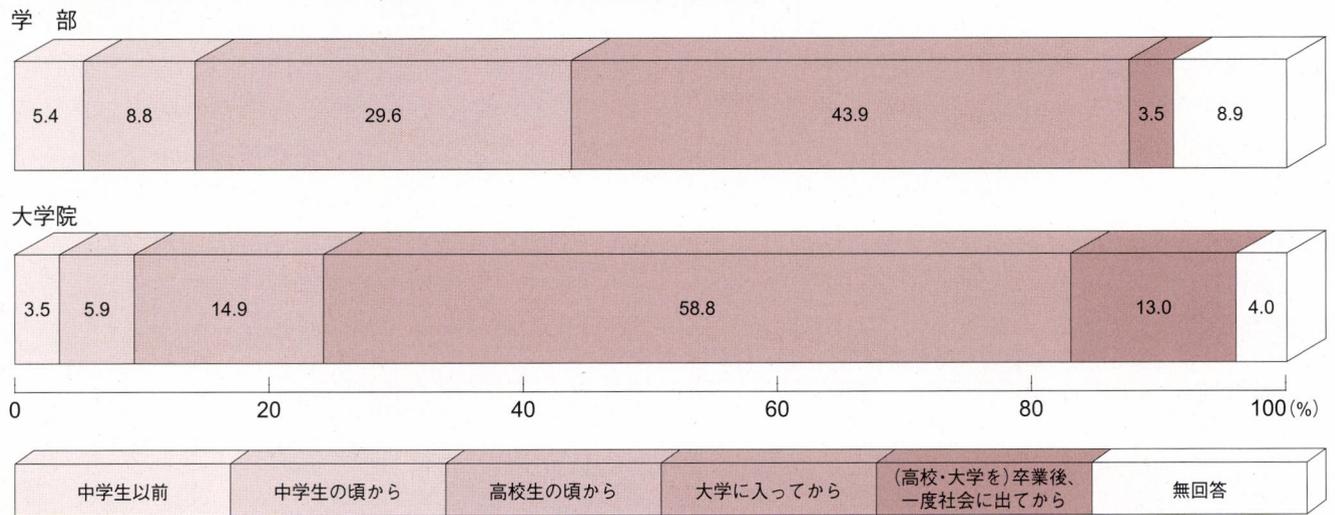
凡例 その進路を考え始めたのはいつくらいからですか？



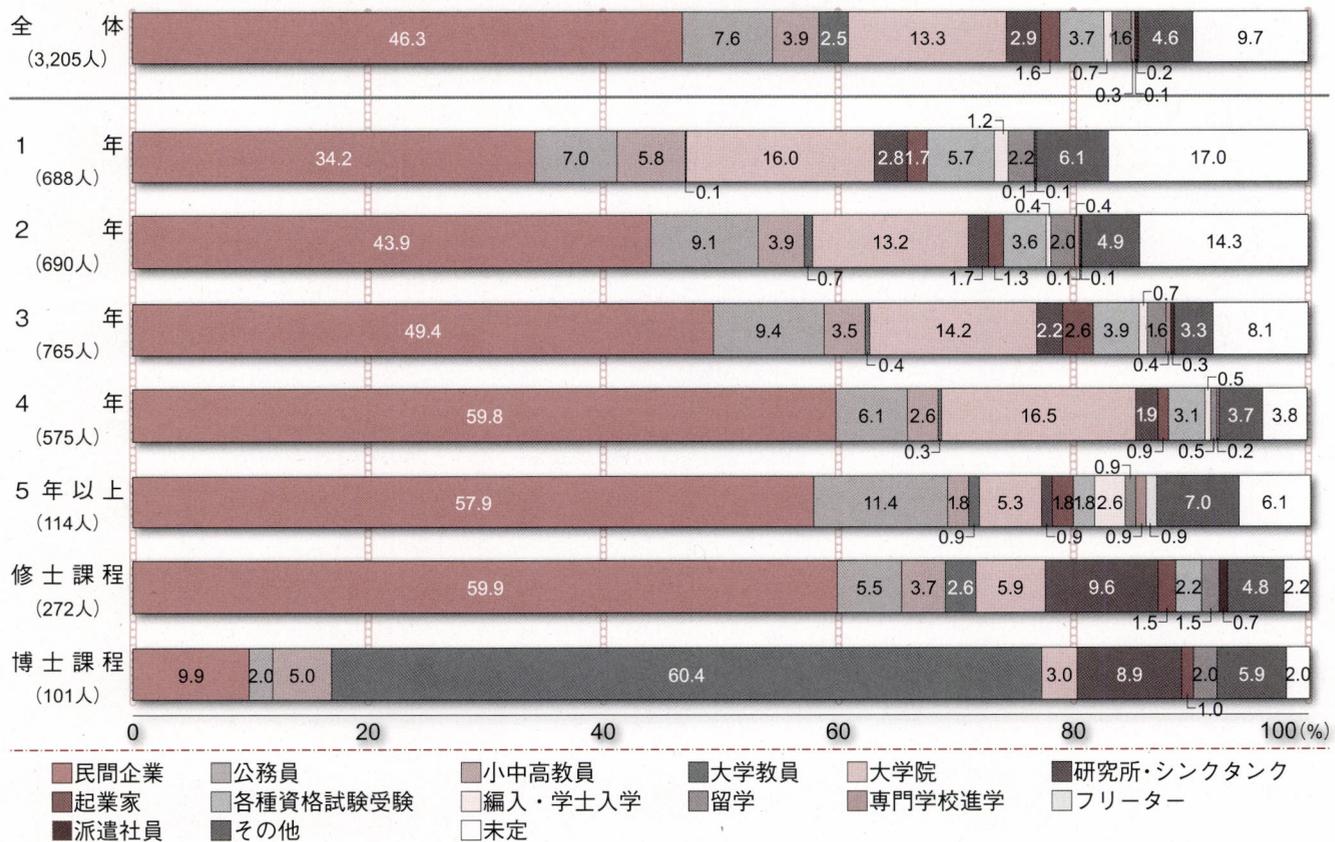
大学入学後の進路決定時期を見ると、「民間企業」の希望する学生の比率は学年が上がるにつれて一貫して増加しています。「修士課程」の学生を含めて4年生以上では6割近い学生が「民間企業」を希望していますが、1年生では3割強に留まっており、就職が間近になるにつれ「民間企業」に進路を決定するという現実的な判断がなされているものと考えられます。一方、逆に「教員」は1年生で5.8%であるのに対して、学年が上がるほどその割合が減り、4年生では2.6%にまで減

少しています。また、「公務員」を希望する人は2,3年生では9%程度いますが、4年生になると減少し6.1%になっています。「教員」や「公務員」を希望する学生が学年が上がるにつれて減少する理由としては、「民間企業」に比べて教員資格の取得や「教員」や「公務員」になるために「狭き門」の試験を突破する必要があるなど、現実的な壁を身近に感じるためと考えられます。逆に、5年生以上になると「民間企業」が若干減り、「公務員」の希望が増える傾向が見られます。

その進路を考え始めたのはいつくらいですか？ 学部・大学院別

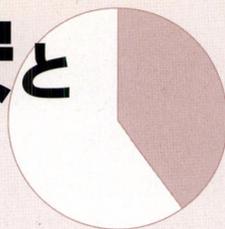


学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？ 学年別





将来の進路への不安と 大学への期待



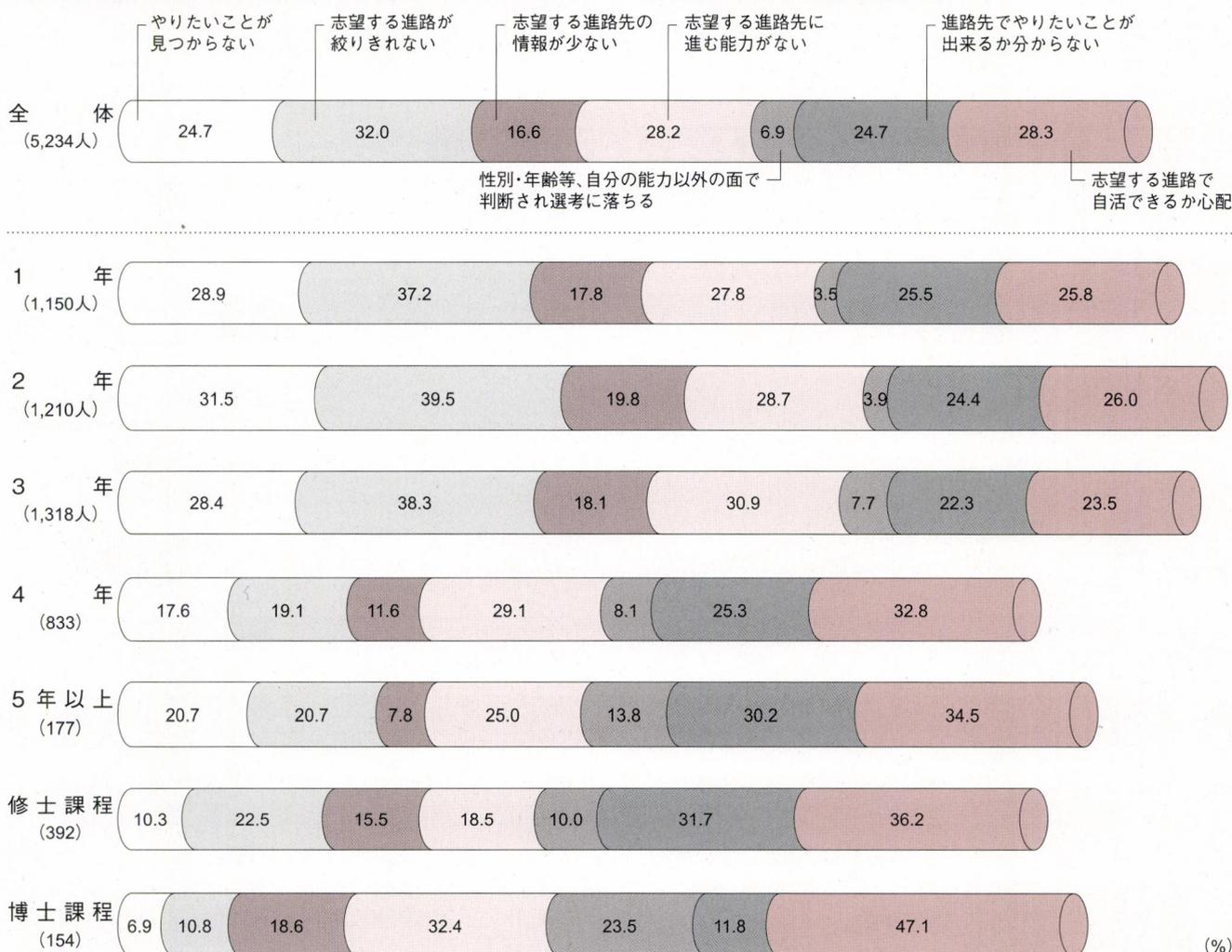
将来設計

POINT 39.9%の学生がキャリアプラン設定の
アドバイスを求めている

学部・研究科の学生全体の24.7%が「やりたいことが見つからない」、32.0%が「志望する進路が絞りきれない」、24.7%が「進路先でやりたいことが出来るか分からない」など将来の進路に不安を持っています。学年別にみると、「やりたいことが見つからない」比率は、3年生までは約3割なのに対し、4年生になると17.6%に低下し、研究科になると比率はさらにその半分程度に低下しています。これは、この進路を考え始める人が約7割に達する4年生の時期と一致しており、進路を考え始めることが「やりたいことが見つから

ない」という不安の解消に関連しているように思われます。また、「志望する進路が絞りきれない」や「志望する進路先の情報が少ない」といった不安要因も、同様に3年生まではそれぞれ約4割、2割あるのに対して4年生になると19.1%、11.6%に半減しています。就職等の進路を具体的に考えることがこれらの不安解消につながってはいますが、3年生以下の学生に対しても、将来に対する漠然とした不安要因を解消するために、キャリアプランに関する意識付けを低学年の段階から行う必要であると思われます。

将来の進路についてどのようなことが不安になりますか？ [複数選択可] 学年別

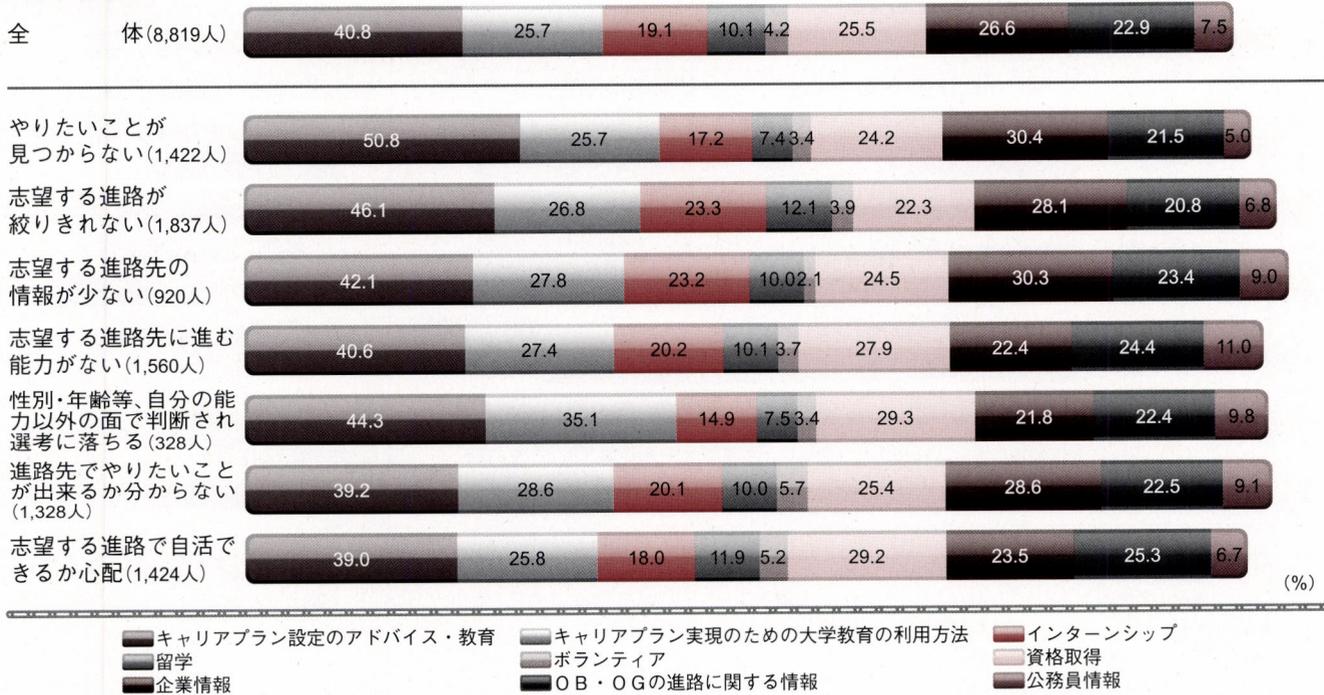


また、大学へ期待する情報サービスとして、学部学生の40.8%の人が「キャリアプラン設定のアドバイス・教育」を期待としています。特に、「やりたいことが見つからない」不安を持っている人の50.8%が「キャリアプラン設定のアドバイス・教育」を求めています。また、学部学生・大学院学生を合わせた全体の39.9%の人が「キャリアプラン実現のための大学教育の利用方法」を期待し

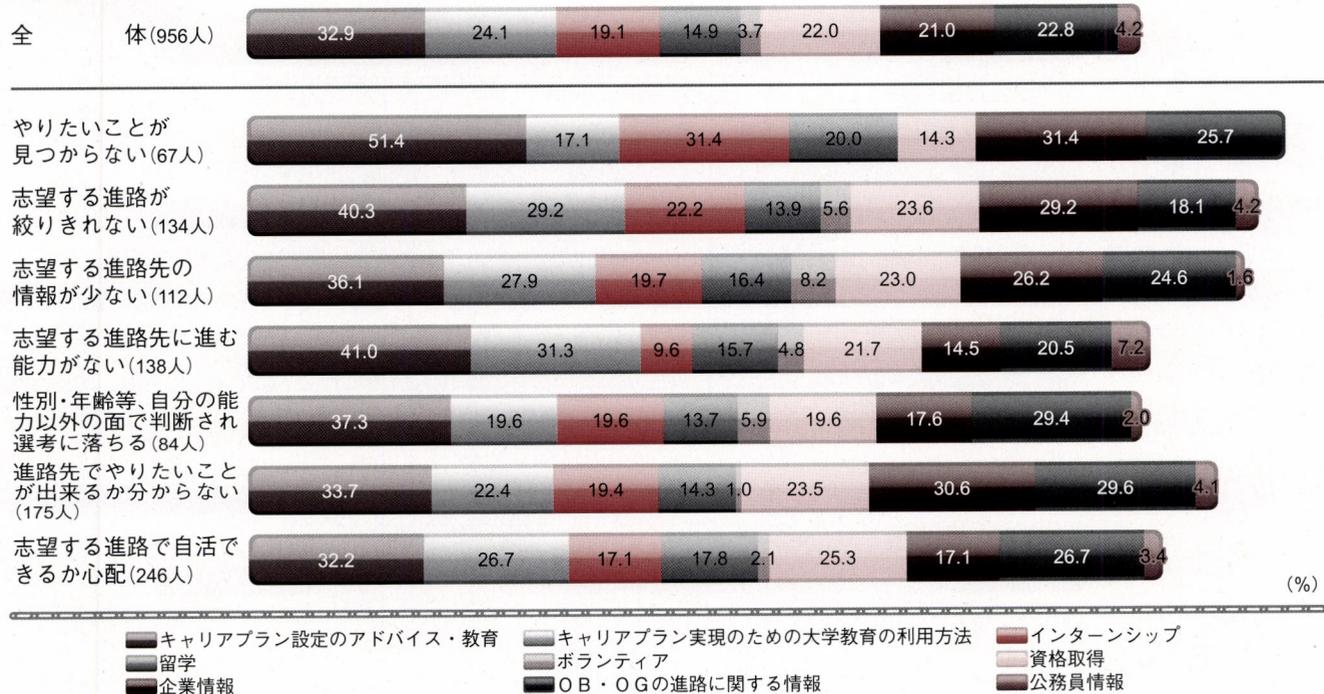
ており、「キャリアプラン設定のアドバイス・教育」と「キャリアプラン実現のための大学教育の利用方法」の回答数を合わせると約7割の人がキャリアプランの形成に関して大学への期待をもっていることになります。低学年においてこのような期待が多い理由としては、個々の授業がキャリアプラン形成にどのようにつながるかが分からないと感じている人が多いためと考えられます。

クロス集計 将来の進路についてどのようなことが不安になりますか？ [複数選択可]
 凡例 将来設計についてどのような情報・サービスを大学から提供してほしいですか？ [複数選択可]

学部



大学院



進路別に大学に期待する情報サービスをみると、「民間企業」志望者では「企業情報」や「インターンシップ」に関する情報提供を、また、「公務員」では「公務員情報」や「資格情報」を、「小

中高教員」では「資格情報」など、それぞれの進路に関連した情報サービスを期待していることが分かります。

クロス集計

将来設計についてどのような情報・サービスを大学から提供してほしいですか？ [複数選択可]

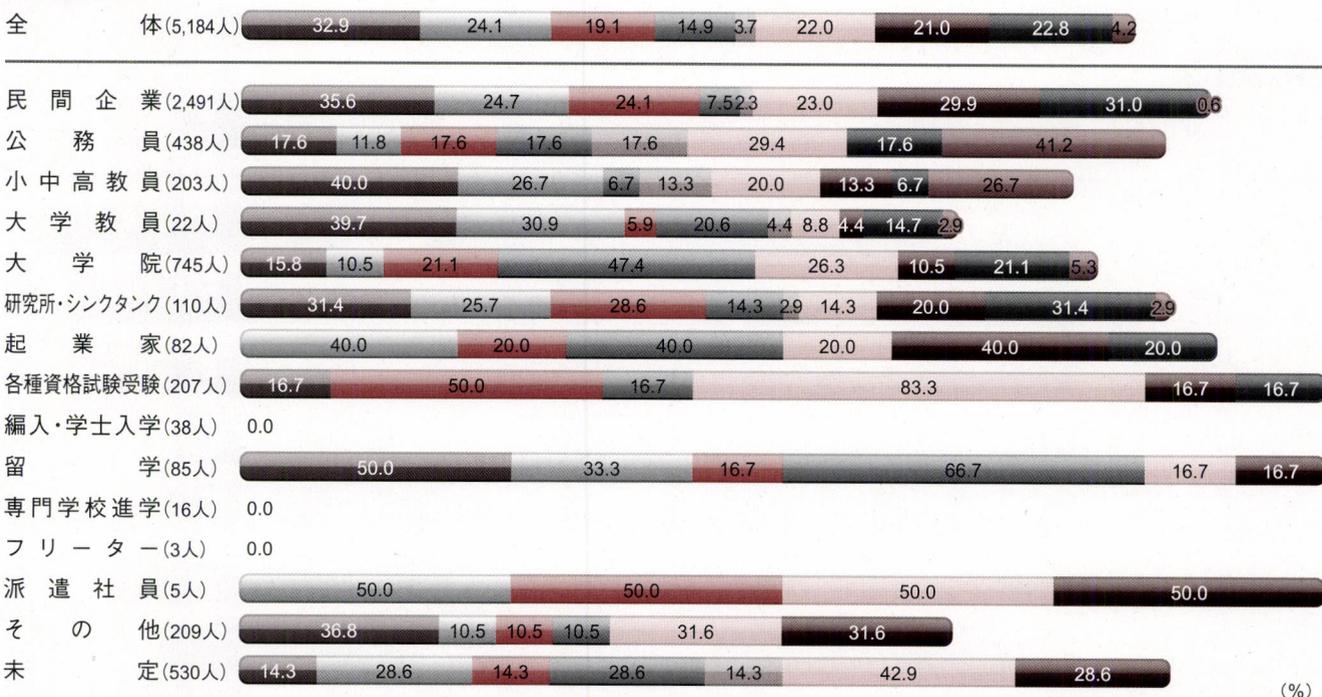
凡例 学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？

学部



- キャリアプラン設定のアドバイス・教育
- キャリアプラン実現のための大学教育の利用方法
- インターンシップ
- 留学
- ボランティア
- 資格取得
- 企業情報
- OB・OGの進路に関する情報
- 公務員情報

大学院



- キャリアプラン設定のアドバイス・教育
- キャリアプラン実現のための大学教育の利用方法
- インターンシップ
- 留学
- ボランティア
- 資格取得
- 企業情報
- OB・OGの進路に関する情報
- 公務員情報



進路に向けた準備は3年生から

将来設計への準備

POINT

企業研究・就職試験対策

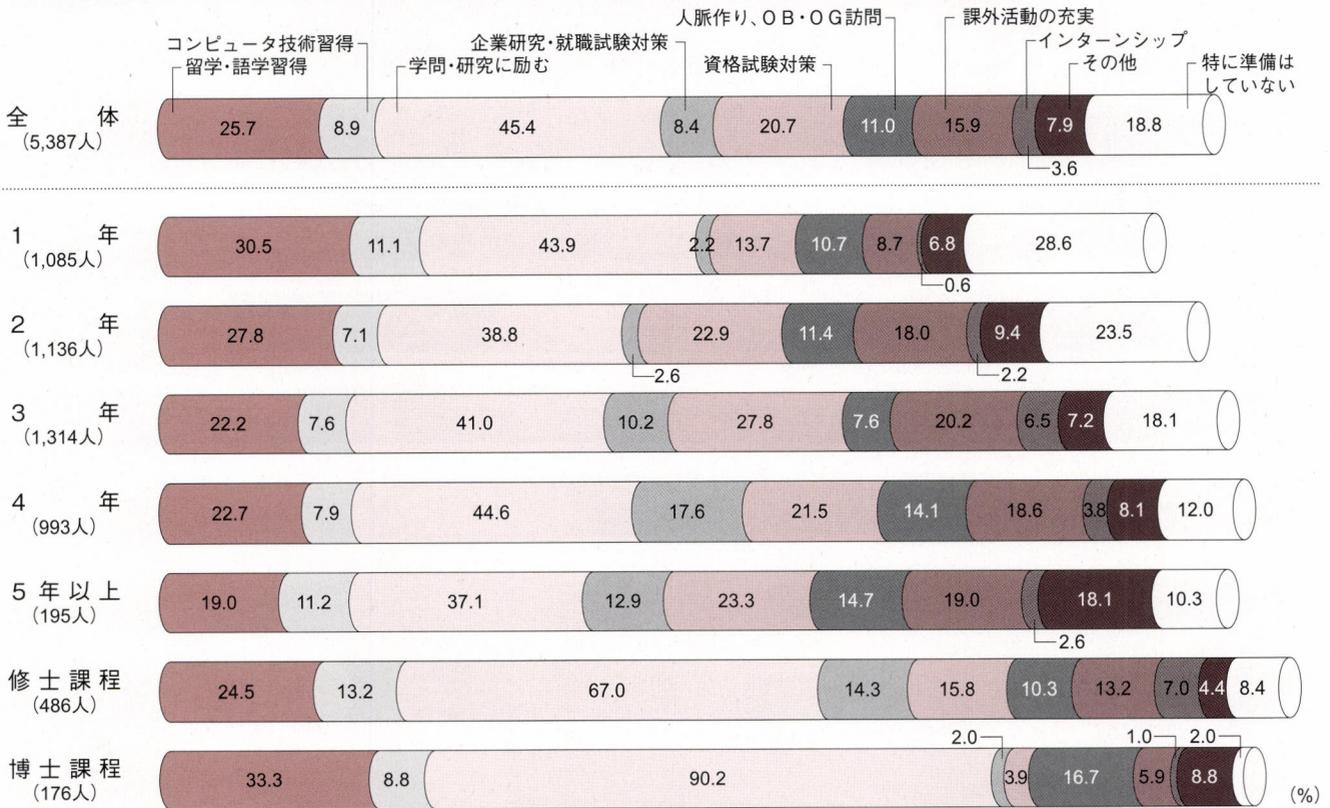
2年生 **2.6%** ⇒ 3年生 **10.2%** ⇒ 4年生 **17.6%**

将来設計に向けての準備として、「学問・研究に励む」と回答した人は、学部学生では学年によらず約4割であるのに対し、大学院修士課程の学生が約7割、博士課程の学生が約9割でした。大学院の学生の多くが「学問・研究に励む」を挙げるのは当然の結果ではありますが、学部学生では1年生と4年生で若干高く2年生で低い結果となっています。また、将来の進路に向けて「企業研究・就職試験対策」の比率は2年生までは2%台であるのに対し、3年生で10.2%、4年生で17.6%と増加しています。就職先などの進路に向けた準備が3年生から行われていることが分かります。また、大学院では、「企業研究・就職試験対策」の比率は、修士課程の学生で14.3%で学部学生と同程度の比率となっており、これは理系の大学院を中心として民間企業への就職が多いためと考え

られます。一方、「資格試験対策」と答えた人は2年生で増加しており、2年生から資格取得を意識した対策に取り組んでいる状況が見えてきます。また、「人脈作り、OB・OG訪問」は4年生以上および研究科の学生で多く見られ、就職や専門職を目指す学生にとって人脈作りが重要であるとの意識が見えてきます。また、「インターンシップ」の比率は、学部の3年生と修士課程に多く見られます。大学に期待する情報サービスとして「インターンシップ」を挙げた学部学生の比率は19.1%あり、将来の進路を決める上で就職活動に入る前の時期にインターンシップを体験しておきたいと思っている学生が潜在的に多くいるのに対し、実際にインターンシップを体験した学生数の間に相当のギャップがあると考えられます。

第2章
将来設計（キャリアプラン）と準備について

将来設計に向けて、現在どのような準備をしていますか？ [複数選択可] 学年別

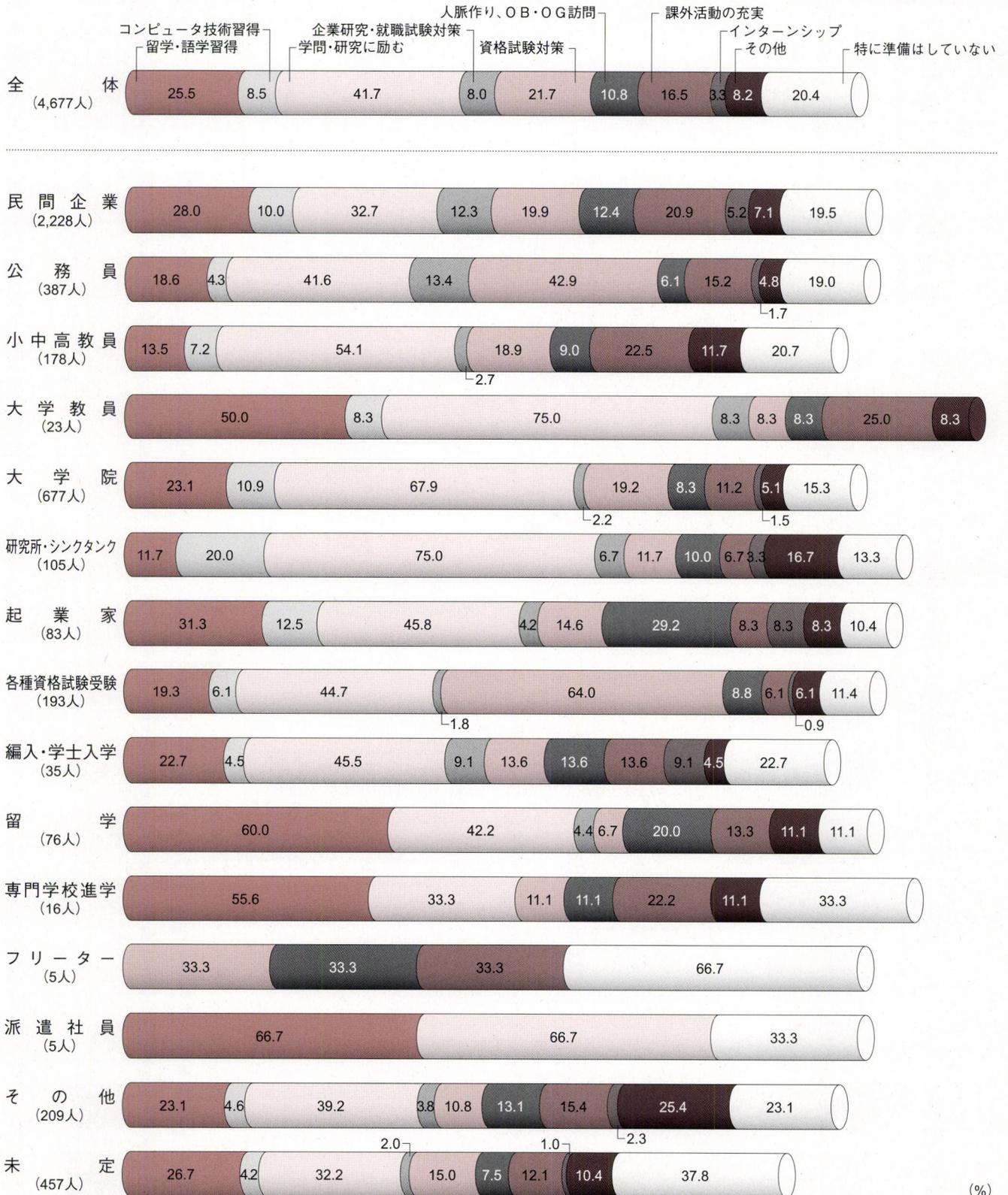


4 将来設計への準備

進路別に将来設計に向けた準備状況を学部学生について見てみると、「学問・研究に励む」の比率が高いのは、「公務員」(41.6%)、「小中高教員」(54.1%)「大学院」(67.9%)、「研究所・シンクタンク」(75%)であり、逆に低いのは「民間企業」(32.7%)「専門学校進学」(33.3%)であり、「民間

企業」を目指す人にとって、「学問・研究に励む」だけが将来設計に向けた準備ではないと考えることがわかります。また、「公務員」を目指す人は「資格試験対策」を挙げる比率が他の進路に比べて2倍以上多く、公務員試験に向けた取り組みがなされていることがわかります。

クロス集計 学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？
 凡例 将来設計に向けて、現在どのような準備をしていますか？ [複数選択可] 学部



(%)